

会議の要旨

会議の名称	令和5年度 第1回和泉市教育委員会評価委員会
開催日時	令和5年5月11日(木) 午前10時00分～12時00分
開催場所	和泉市役所庁議室
出席者	<p>和泉市教育委員会評価委員会 委員長 平良 伸哉 委員 杉田 菜穂 委員 川口 厚</p> <p>教育・こども部</p> <p>次長兼教育総務課長 鍛治 公哉 教育総務課長補佐 大西 薫 教育総務課企画課係長 小路 佑樹 教育総務課総務係主事 西川 世理奈 学校園管理室長 佐々木 敦 教育施設担当課長 大内 浩平 教育施設担当総括主幹 川野 章 保健給食担当課長 濱田 直美 保健給食担当総括主査 光本 裕輝 教育指導監 上田 茂幸 学校教育室長 阪下 誠 教育指導担当課長 仲谷 正太郎 教職員担当課長 鈴木 俊孝 人権教育担当課長 永井 敬 教育センター所長 隅埜 哲弥 こども未来室長 西角 雅士 幼保運営担当課長 北野 剛司 幼保育成担当課長 樋上 征史 幼保育成担当参事 東野 光代</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 評価委員紹介 4. 職員紹介 5. スケジュール確認 6. 教育・こども部ヒアリング <ol style="list-style-type: none"> (1) こども未来室 (2) 学校園管理室 (3) 学校教育室

ヒアリング内容	
全体 平良委員長	<p>予算額と決算額の乖離が大きい取組項目については、その理由がわかるよう記述しておくほうがよいと思われる。</p> <p>この点について、評価シートの様式を改定するなどの対応を検討されたい。</p>
鍛治次長	事務局内で調整・検討のうえ、結果について委員の皆様へ報告する。
取組項目番号2 杉田委員	施設の安全面に関して、老朽化が原因という答えは成り立たないので、行政が判断し、きっちり取り組んでいただきたい。
取組項目番号3 杉田委員	中長期的な見通しについて、おおよそのニーズの把握は出来る状況ということでしょうか。
北野課長	おおよその把握をして5年間の計画を作っている。待機児童が発生している中部地域に分園を整備し、状況を見たうえで、必要であれば新たな対策を取っていかないといけないと考えている。
杉田委員	子育て支援において待機児童の問題は特に大きい。待機児童をできるだけ出さないように努めていただきたい。
取組項目番号4 杉田委員	<p>1人1台学習用端末を活用した授業づくりについて、家庭での活用を含め、具体的に把握ができていれば聞かせていただきたい。</p> <p>また、ICTの活用が、コロナ禍と今後とで何か大きく変わるのかを可能な範囲でお答えいただきたい。</p>
仲谷課長	<p>1人1台端末の持ち帰りに関しては、令和4年度から、家庭学習でAIドリルのキュビナを活用している。</p> <p>活用については学校間で少し格差があると感じており、それをどう埋めていくかが令和5年度の課題と考えている。原因としては、得意、不得意が先生にあり、教育委員会として伴走しながら格差を埋めていきたい。</p>

	<p>コロナ前後に関わらず、ICTの活用能力は子どもたちにとって非常に大事なので、活用の頻度や内容は少し変わるかもしれないが、一層ICTを活用しながら、主体的で対話的な深い学びに繋げていくことを進めていきたい。</p>
杉田委員	<p>ICTが進むことで、学校間の格差や教員の負担への配慮と、環境を含め、保護者がサポートできるかなど、子どもたちの格差に気を付けていただきたい。ICTの活用にブレーキをかけることはないが、それに伴い生じる格差や問題を、行政の立場からキャッチしケアしていく観点を持っていただきたい。それから、ICTに関しては視力の問題等の心配をされている保護者がいることを把握し、行政あるいは現場として啓発してほしい。</p>
平良委員長	<p>取組の成果にある全国学力・学習状況調査における対府比の向上について、目標値1.00というのは、今までと比べてどうか。</p>
隅埜所長	<p>現状は、小学校・中学校ともに府平均より下回っている。ただ、令和3年度から令和4年度にかけては、小学校・中学校ともに向上が見られたので、まず1.00を1つの目安とし、更に上回っていきたいと考えている。</p>
平良委員長	<p>和泉市は私学を受ける子どもが多いので、若干下がってくることはあると思うが、数値としてははっきり出てくるので、この辺りは気にかけるながら対策をうっていただきたい。</p>
取組項目番号6	
杉田委員	<p>依然として業務過多となっている教職員について、業務に偏りなどの傾向はあるのか。それとも、単に個人のモチベーション、積極的に思い入れたりして過労になっているのか、把握できているのか。</p>
鈴木課長	<p>業務過多になりやすい状況として、1つは生徒指導事案が生起したときである。2つ目は、体育大会のような大きな行事に対する主催者の時間数。あとは、育休絡みで年々短時間勤務の教職員が増加しており、全体の業務量に対して教職員がカバーし合っていかなければいけない状況である。そういった要因が重なった時に、業務過多になる教職員が出る。</p> <p>本来は、教職員が育休を取得した場合、代替の臨時講師が補充されるが、人材不足と講師不足により、昨年度から欠員が出ている状況である。</p>

杉田委員	<p>欠員が出ているのは問題がある。ある行事のときだけ忙しいのは仕方がないと思うが、人員に穴が空いたところを埋められない状況は、少し問題だと思う。人員要求してほしい。</p>
平良委員長	<p>講師の欠員が出ている学校は非常に厳しいと思う。学生のボランティアや教育実習などを引き受ける中で、あらかじめ講師としての枠を囲っておく作戦もいるかと思う。</p> <p>大学との協定締結状況はどうか。</p>
阪下室長	<p>和歌山大学、桃山学院教育大学と昨年度締結した。元々桃山学院大学とは市との協定があり、大阪公立大学とも協定を締結している。</p>
平良委員長	<p>和泉市では是非働いてみたいという気持ちを学生から出させて、是非講師の確保に繋げていけたらいいと思う。</p>
杉田委員	<p>教育現場では、うつ病のため時短や休職が多いと聞いているが、最近の傾向は。</p>
鈴木課長	<p>コロナの影響かはっきり分からないが、昨年度4月、一昨年度の4月、5月は、例年と比べると少し増えたと思う。経験年数の少ない教職員が少しずつ増えており、複雑化、多様化する業務や保護者対応などから疲弊する割合が増えていると感じている。</p>
杉田委員	<p>現場の空気感自体が悪い場合もあるので、現場では見えない、別のところから傾向を見て、状況把握することが大切である。資質向上について、働く環境を良くする観点も含めて取り組んでほしい。</p>
川口委員	<p>40人学級を35人にするのと定数が増える一方で教職員の確保についてはどこの市も困っていると思う。例えば、今年度については3年生の35人学級は1年見送るといったことは市の裁量ではできないのか。</p>
鈴木課長	<p>国の制度として35人学級編成となる部分については、市の裁量が及ぶものではない。それ以外においても、授業時間数が増えたとしても、子どもたちのことを考えると、クラス数を増やしてほしいという学校が年々増えている。今後、人材確保が大きな課題になるが、例えば、中学</p>

<p>取組項目番号7</p>	<p>校の少人数学級、35人学級編制も踏まえて、大学も回り、できるだけ早めに人材確保をしていきたいと考えている。</p>
<p>平良委員長</p>	<p>長期欠席児童生徒について、グリーンルーム利用、校内の適応指導教室、外部のフリースクールやICTを活用した授業など、対応ができていない児童生徒への対応は。</p>
<p>仲谷課長</p>	<p>スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが、不登校の要因について教員と一緒に分析する。アプローチについて十分ではない部分もあるので、どこにも繋がっていない子どもをどう減らしていくかについて、特に教育委員会として学校に指示をしていく。</p>
<p>取組項目番号9</p>	<p>例えば、LGBTQの児童生徒がいた時にどう対応するのか。現場から上がってきている具体的な相談などはあるか。</p>
<p>永井課長</p>	<p>該当する児童生徒がいることは把握している。特に問題を抱えているといった相談はなく、現場で適切に対応している。</p>
<p>平良委員長</p>	<p>性の多様性への理解を深める取組みについては、子どもたちへの取組みもしているのか。</p>
<p>永井課長</p>	<p>各校へは、必ずジェンダー平等や性の多様性に関して取り組むように指示しており、計画も実践報告も上がってきている。</p>
<p>川口委員</p>	<p>和泉市で外国籍の児童生徒が増えているのか。また、イスラム圏の宗教的な理解について、わかる範囲で教えていただきたい。</p>
<p>永井課長</p>	<p>外国籍の子どもは増えており、令和4年度で約100人いる。日本語指導が必要な子どもは70人前後いる。イスラム圏からの児童生徒は、槇尾中学校区に大体10人前後ぐらいいる。文化祭の場でパキスタンの文化や料理などを紹介する取組みは勿論、普段の学校教育の中でも、ラマダンの時期に給食を食べずに別室で待っていたり、水を飲むのを我慢していたりについても理解を深めるといった取組みをしている。</p>

取組項目番号10	
川口委員	社会性測定用尺度とはどういうものか。
仲谷課長	社会性測定用尺度は、大阪府が示しているものを活用している。大阪府全体で必ずやらないといけないものではないが、和泉市では全校で実施し数値の動きを追っている。特に、自己肯定感、自己有用感のところを見ていきたいと考えており、年間2回以上は担当者会を実施し、その活用について理解を図っている。
平良委員長	最高点は。
仲谷課長	45点。
平良委員長	内容は自己肯定感などか。
仲谷課長	はい。例えば、人の役に立っていると感じている、相手の気持ちを考えて行動している、相手の話を素直に聞くことができる、など。地域における大人との関りは、昔と比べて薄くなってきている部分もあるので評価シートに上げた。
平良委員長	自己肯定感は日本人全体が低いところがあるが、半分ぐらいというのが少し気になる。
取組項目番号11	
杉田委員	健康教育について、がん教育はどのようなプロセスで決めているのか。
仲谷課長	大阪府のがん教育に関わる事業を活用し、各中学校で取り組むように市として指導している。何年かの間全ての中学校でできるように計画し、進めている。
杉田委員	報告書に記載されていないことで現場レベルの裁量で実施されていることもあるのか。
仲谷課長	たくさんある。
杉田委員	現場の教育が変わってきていることは、担当者が常に把握できている

	のか。
仲谷課長	健康教育についての年間計画があるので、その中で一定把握している。
川口委員	体力の低下が深刻な課題になっている一方、働き方改革や部活動の地域移行で部活動の実施回数が減っていることもあり、何年か前の数値と比較して体力向上が図られたかどうか評価するのは難しい。体力向上に関しては、部活動で担ってきた部分はかなりある。体力向上は必要だが、以前のように上げていくのは難しいといった理解は得られる状況か。
仲谷課長	国全体で見た体力もコロナ禍で下がっており、部活動ができなかった影響も含め、理解していただけていると思う。達成目標は対府比 1.01 と相対評価にしている。学校における変化もあるので、数値が下がっていることで、一概に取り組みが上手くいっていないという評価をされることはないと思っている。
杉田委員	学校外教育が非常に増えていて、それが部活動率と相関がある可能性もあり、指標自体もすごく難しい。体力はコロナ禍で下がってきたことは明らかだと思うが、部活動だけで追えるのか。
平良委員長	将来的には、学校外教育と学校と上手く分担しながら子どもたちの体力を上げていくのだと思う。 水泳授業の屋内プールの活用について、将来的には全ての学校で実施するという事か。
仲谷課長	はい。全ての学校で実施する。
平良委員長	もう目処は立っているのか。
仲谷課長	はい。
取組項目番号12 平良委員長	調理業務委託については、どれぐらいの年数ですべて民間委託に切り替わるのか、見通しはあるのか。
濱田課長	令和6年度に北松尾小学校、令和7年度に槇尾学園、令和8年度に信

<p>取組項目番号13</p>	<p>太中学校、令和9年度に富秋学園まで予定しており、調理員の退職状況等や給食室の設備の状況、改修と併せながら順次進めていく予定である。</p>
<p>杉田委員</p>	<p>検診での有所見者に対する受診勧奨について、どのようなことが想定され、どのように関わるのが良いのかの議論はしているのか。</p>
<p>濱田課長</p>	<p>肥満と言うと子どもたちにネガティブな印象を与えるところがあり、アプローチの仕方が非常に難しいところが課題である。また、肥満が将来的に生活習慣病の予備軍になることが理解いただけていないところもあり、まずは、その辺りに取り組んでいきたい。</p>
<p>杉田委員</p>	<p>内科、歯科の検診受診率の目標値を今後どう考えるのか。長期のデータ推移が参考になると思うが、どのように見ているのか。</p>
<p>濱田課長</p>	<p>和泉市全般において、この2つの検診に関わらず受診率が低い状況で推移している。内科検診の場合は、湿疹など緊急性を要しないため受診に結びつかないケースも多い。本来は100%をめざすものであると考えているので、集計の取り方についての精査も進めながら、効果的な受診勧奨について検討するにあたり、保護者の理解をどのように得られるかや行動変容できるかを見ながら、段階的に上げていきたい。</p>
<p>杉田委員</p>	<p>子どもの場合、本人が判断することが難しく、親の判断が格差を生んでいたりするので、こういった理由で受診しないのか、データ等で傾向がつかめれば、それが問題としても伝わるかと思う。</p>
<p>平良委員長</p>	<p>養護教員の部会はあるのか。</p>
<p>濱田課長</p>	<p>ある。</p>
<p>平良委員長</p>	<p>そこで情報交換をし、好事例を共有すると上手くいくと思う。是非活用していただきたい。</p>
<p>取組項目番号14</p>	<p>令和3年度の課題に老朽化する備品更新のために継続的に予算確保と書いてあり、今年度の事業評価ではその辺りについての言及がないが、</p>

	<p>予算の確保の見通しや老朽化している大型備品を更新していくという計画が進んだという理解でいいのか。</p>
大内課長	<p>継続的に予算確保ということで、今年度大幅に何か進んだということではないが、大型備品については順次進めており、特に書いていないという状況である。</p>
取組項目番号15 川口委員	<p>入札の形態は。</p>
大内課長	<p>プロポーザル方式で価格や技術的な提案を受けて、選定委員会で選定し、随意契約した。</p>
平良委員長	<p>跡地利用について、市としての総合的なアイデアの出し合いのようなものはあったのか。</p>
鍛冶次長	<p>市有財産は、市長部局の資産マネジメント担当で管理している。横山小学校は、普通財産にしてから処分について検討してもらう形になる。南横山小学校は豊かな自然があり、地元からの声も大きくあるので、引き続き教育財産とし、榎尾学園だけでなく、地域全体の学校も利用できるように形で検討している。</p>
平良委員長	<p>南横山小学校は学校林があるので、どんどん活用していただきたい。</p>
取組項目番号25 杉田委員	<p>量の確保と質の確保への対応、きっちりとマネジメントをしていくことが大事である。</p>
その他 川口委員	<p>学校教育室の令和5年度の予算は前年度と比べてどうか。</p>
阪下室長	<p>室として力を入れる事業は予算を増やし、その分を他の事業で削るところもあるので、細かい増減はあるが、大幅に増加というものではない。</p>
鍛冶次長	<p>教育費でいくと、令和5年度は前年度比較で3割増。学校園管理室所</p>

	<p>管の施設整備の予算も入っており、その影響もある。学力向上の予算では、希望塾、AIドリル、リーディングスキルテスト、その辺りはほぼ前年ぐらいの規模である。</p>
杉田委員	<p>教育目的に寄附はあるか。</p>
永井課長	<p>奨学金はほぼ横ばいで3,800万円。</p>
杉田委員	<p>日本では寄附行為が少ないという分析があるが、それも重要な財源だと思う。</p>
平良委員長	<p>小中一貫の効果検証の予定はあるか。</p>
阪下室長	<p>指標としては、学力向上、生徒指導の不登校、いじめ、問題行動などを見ながら効果検証していく必要があると思っている。</p>